

2015MHC 登山講習

アルプス登攀記

MHC 登山講習初心者雪山報告書

2015MHC 登山講習「白銀の硫黄岳」から

主催 NPO 法人 松本ヒマラヤ友好会<MHC>

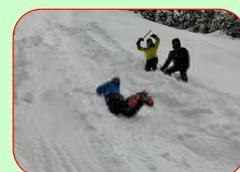
本部事務所 松本市島立 4539-7 TEL 47-6197 FAX 47-5685

E-mail : mhc@lily.ocn.ne.jp ホームページ : <http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>

共催 松本市 山岳観光課 TEL94-2307

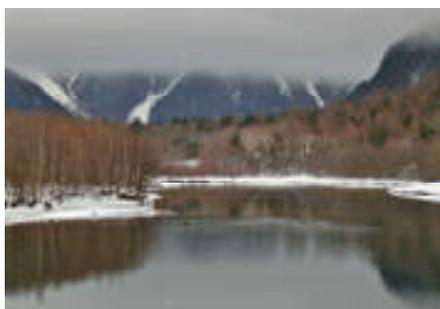
後援 長野県教育委員会 松本市教育委員会

信濃毎日新聞社 朝日新聞松本支局 毎日新聞松本支局 読売新聞松本支局 産経新聞長野支局
中日新聞社 市民タイムス 松本平タウン情報 長野日报社 SBC 信越放送 NBS 長野放送
TSB テレビ信州 abn 長野朝日放送 テレビ松本ケーブルビジョン FM長野 長野県写真連盟



滑落停止練習

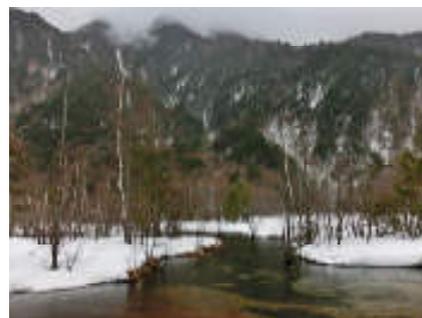
2月13日 AM6:30、天候は曇。松本からは参加者6名、一台の車に同乗し、坂巻温泉旅館に向かう。旅館からは、主人の計らいで、新釜トンネルまで送ってもらう。AM9:00 準備をして新釜トンネル入り口を出発。ヘッドランプを照らし暗闇の中に向って坂道を歩き出す。30分程でトンネルを抜けると、白銀の世界が広がっている。天候は雨模様、雪が解けて舗装がむき出し状態。しかし表面が氷結し滑りやすい為、スノーシューを履き、氷結した道を進む。上空は雨雲が覆い大正池畔にたどり着いても、焼岳、穂高岳を望む事が出来ない。



大正池畔からの雨雲を被った穂高岳



大正池畔に行く



田代湿原と望む霞沢岳



梓川右岸から望むカラマツ林

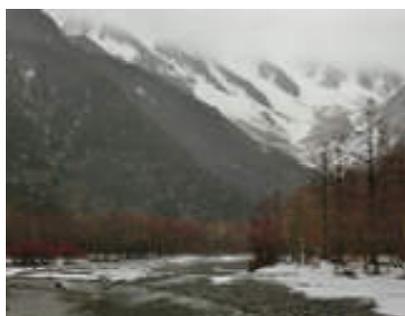


河童橋袂に到着

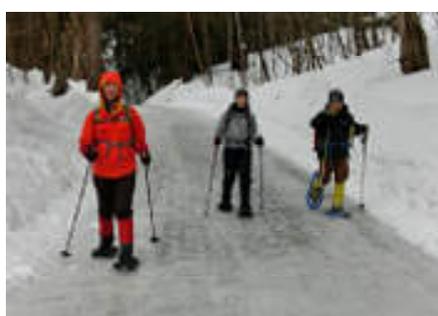


河童橋で「バンザイ！」

田代湿原を経て田代橋を渡り、梓川右岸を歩く。対岸の霞沢岳、六百山の山々も雨雲に隠れている。梓川の雪に埋まる河原をしばらくスノーシューを駆って進むと、PM12:00 河童橋に到する。しかし、上空は厚い雪雲に覆われ、穂高岳は望めず、岳沢の麓を微かに仰ぐのみだった。風を避けてバスターミナルで昼食を摂り、氷結したバス道路を引き返す。PM3:00 釜トンネル出口へ辿り着く。この日、坂巻温泉へ宿泊。暖かい温泉に浸かり豪勢な食事と岩魚の骨酒に酔いしれる。夕食後「氷壁」映画を楽しみ、PM9:00 過ぎ、静かに就寝する。



河童橋袂からの穂高岳と梓川



氷結したバス道路の帰りの様子



乗鞍高原鈴蘭と白樺林

翌14日、夜半から雨が本降り状態だ。AM8:30 坂巻温泉を出発して乗鞍高原へ向かう。鈴蘭駐車場から一ノ瀬園地へ向かうが、雨のおかげで舗装が丸出しだ。スノーシューを諦め、車を降りて、白樺林を歩いてみる。仰ぐ小枝上部にヤドリギが風に揺れ、詩的な風情が漂う。番所の「レストランチロル」の日本そばで、早めの昼食を摂り、その後、時間つぶしに番所大滝まで下ると、その爆流の勢いにびっしょりとなる。PM1:00 車に戻り同乗して松本へ向う。PM2:15 松本県合同庁舎駐車場に到着し解散とした。

「白銀の雪原をスノーシューで歩く楽しさと、秘湯の温泉を味わい尽くした登山講習だった。」

2015MHC 登山講習

白銀の硫黄岳 (2765m) を登る

3月12日 AM7:30 参加者 5名が1台の車に乗り合わせ松本を出発。天候は曇り。中央高速道路を走り、諏訪南インター駐車場で1名が合流、総勢6名となって、山麓道路を登る。AM9:00 美濃戸口到着。そこから4輪駆動車で奥まで進もうとするが、チェーンを装着していないため登れず、途中諦めて道端に止める事となる。登山準備を整え、登山を開始する。雪の林道を歩き、AM10:45 美濃戸山荘到着。

小休止の後、北沢ルートを進み林道終点の砂防ダム手前から小橋を渡り、トレースを頼りに雪道を登る。例年より深雪の森林帯の中、厚い雲が稜線を覆い、展望が効かない。PM1:15 赤岳鉱泉小屋に到着、宿泊手続きをして、遅い昼食を摂る。



美濃戸口から林道を進む



北沢ルートの雪道を登る

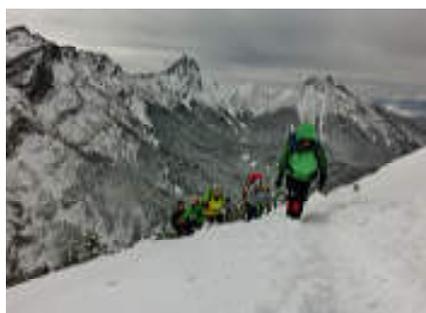


滑落停止訓練を行う

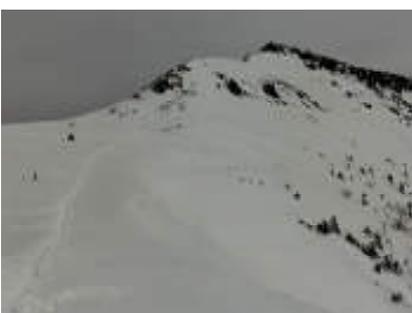
昼食後全員アイゼンを装着して行者小屋へのルート脇にある雪斜面に向かう。斜度30度程の雪斜面で滑落停止練習を小1時間程行い、PM4:15 小屋へ引き返し泊す。夕食は、豪勢な厚切りステーキに舌づつみを打つ。



森林帯の深雪斜面を登る



森林限界から真っ白な雪斜面を登る



稜線から硫黄岳山頂を望む

13日 AM5:30 起床。朝食後雪山装備を整え、AM7:55 小屋を出発。上空は高曇りの天候だが展望は効く。アイゼンを効かし森林帯の深雪斜面をゆっくりと登る。高度を上げると、林間から主稜線の峰々が望まれる。

森林限界からは、30度を超す真白な雪斜面をジグザグに登り、小さな雪庇を乗り越えると、赤岩の頭と呼ばれる稜線にAM10:00 登り出る。展望が広がり、御岳山、北アルプス、浅間山などの白銀の山々を展望する。

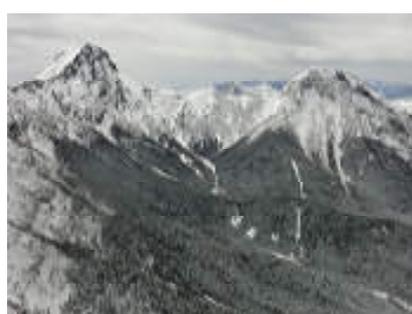
稜線の風は冷たく、ここでヤッケの下に薄セーターを着こみ、雪煙舞う硫黄岳山頂へ向かう。



雪稜線を登る



硫黄岳山頂 2760mに見事登頂



山頂からの赤岳 2899m、阿弥陀岳 2805m

冷風が吹く雪の稜線を、アイゼンを効かし登り続けると、AM10:25 硫黄岳山頂に登頂する。「おめでとう！」頂上に立つケルン脇で、風を避け熱い茶を啜り、登頂の喜びに浸る。山頂からは南に、八ヶ岳主稜の赤岳、阿弥陀岳が迫り、その背後に南アルプスが連なる。私達は、頂上で15分程冷風に震えた後、記念撮影をして下山を開始する。



阿弥陀岳 2805mがと赤岩の頭。



冷風の雪稜線を登る

稜線からの雪斜面の下降に注意し、森林帯の雪道を慎重に下山して、AM11:50 赤岳鉱泉に無事帰還する。昼食後、PM1:30 小屋を出発。昨日と同じ北沢ルートを引き返し、美濃戸山荘からは雪の林道を歩き、PM3:30 美濃戸口付近の車停車場所に無事到着する。

諏訪南インター駐車場で1名と別れ、5名は往路と同じ道を走り、PM4:30 松本に無事到着、解散とする。「勇気を奮って登った、初めての雪山。その感動と喜びを称えたい。また忘れられない登山となった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則